

## 学級や学校の生活をよりよくするための活動を充実させ、 自己有用感を高める特別活動の展開

### I 特別活動研究の方向性

#### 1 主題設定の理由

特別活動においては、児童同士の話し合い活動や、児童が自主的、実践的に活動することを特質としてきました。特別活動における「主体的・対話的で深い学び」とは、各活動、学校行事の学習過程において、授業や指導の工夫改善を行うことで、一連の学習過程の中で質の高い学びを実現することです。それは、特別活動の各活動、学校行事の内容を深く理解し、それぞれを通して資質・能力を身に付け、小学校卒業後も能動的に学び続けるようにすることでもあります。

これまでの本校の研究では、能動的に問題発見、合意形成、協力実践できる力を自治的能力と押さえ、研究を進めてきました。主に学級活動を中心として取り組む中で、問題発見から合意形成及び意思決定、協力実践に至るまでの学習過程の在り方を構築し、自己評価の蓄積から自らの成長を実感することができました。一方で、決まったことの詳細を練ったり、話し合いや活動について振り返りをしたりする場の設定が十分ではなかったため、次の活動へ向けた追究意欲の持続に課題が残りました。また、全国的な課題とも言える「自己有用感の醸成」については、本校においても「学級の友達から認められていない」と感じている児童が一定数おり、互いを認め合う活動を充実させていく必要があります。

本校の児童は、学校行事や児童会活動、クラブ活動に熱心に取り組み、教職員も児童の主体性が発揮される活動となるように指導をしています。また、学級活動では、児童が中心となって進める学級会に計画的に取り組み、学級生活の充実と向上を目指しています。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。特別活動における探究とは、学級や学校の生活をよりよくするために、問題の発見・確認、解決方法の話し合い、決めたことの実践、振り返りまでの一連の学習過程のサイクルを能動的に繰り返していくことと押さえました。一連の学習過程で得られた資質・能力を新たな活動の原動力とするためには、自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れることを通して、社会性の基礎となる自己有用感を高める必要があると考えました。

そこで、研究主題を「学級や学校の生活をよりよくするための活動を充実させ、自己有用感を高める特別活動の展開」と設定しました。「学級や学校の生活をよりよくするための活動」とは、よりよい集団や学校生活をつくることを目的に、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行う活動のことです。「自己有用感を高める」とは、児童が自発的、自治的な活動を通して、互いに協力し合い認め合う中で、自分が他者の役に立つ存在であることを実感し、自分のよさや可能性を発揮して自信をもつことと、他者との関わりや評価によって自分が必要とされていることを実感することです。

#### 2 目指す児童の姿とその具体

##### 自発的、自治的な活動を通して、集団の中で自分の役割を果たし、認め合う児童

「自発的、自治的な活動」とは、児童自ら学級や学校の問題を発見したり、集団としての意見を合意形成したり、決まったことを実践したりすることです。

「自分の役割を果たし、認め合う」とは、一部の児童だけでなく、全ての児童が役割を果たすこと（貢献）を経験し、活動の成果を児童相互に認め合い、集団の一員として認められている（承認）という満足感や充実感、連帯感などをもつことです。また、このような支持的風土の醸成と並行して、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践ができる子の育成を目指します。

## II 研究内容の具体

### 1 資質・能力を育むための学習過程の在り方

特別活動において育成を目指す資質・能力は、事前から事後までの一連の学習過程の中で育まれると考えました。そこで、本時（学級会）の前後の活動を指導計画に位置付け、学級や学校の生活の問題を自分事と捉える学習過程について研究を進めました。

#### ○本時の前後の活動を位置付けた指導計画の例（3年生）

時	主な活動内容	育成する資質・能力						
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画委員会①→学級ポスト内の課題から、全体場で議題を精選する。</li> <li>計画委員会②→本時の役割分担、議題の提案理由、話し合いのめあて、討議の柱を考える。</li> <li>事前の活動→提案理由、話し合いのめあて、討議の柱を受けて、本時の前に自分の考えをもつ。</li> <li>事前の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内での課題や自分たちの生活をよくするために必要なことを見いだす。</li> <li>議題の提案理由、話し合いのめあてを踏まえて、自分の考えをもつ。</li> </ul>						
本時の活動（学級会）	<table border="1"> <tr> <td>議題</td> <td>給食時間の私語をなくすために一人一人ができることは何か。</td> </tr> <tr> <td>提案理由</td> <td>静かなときもあったけれど、最近、意識が弱くなっている。自分たちの命を自分たちで守っていく必要があるから。</td> </tr> <tr> <td>話し合いのめあて</td> <td>一人ひとりの意識が高まり、自分たちの力で解決できる方法を考えよう。</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>議長団は、決まっていることを確認し、本時の進め方を説明する。</li> <li>議題について、提案理由と話し合いのめあてに基づいて話し合い、給食時間の私語をなくす方法について考える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px;"> <p>&lt;学級会で決まったこと&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4時間目の終わりの号令のときに、日直さんが「次は、給食です。」と声を掛ける。</li> <li>話し掛けられたときには、うなずいてから声を出さずに合図をする。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>学級会の振り返り（自己評価、意思決定、相互評価）をする。</li> </ul>	議題	給食時間の私語をなくすために一人一人ができることは何か。	提案理由	静かなときもあったけれど、最近、意識が弱くなっている。自分たちの命を自分たちで守っていく必要があるから。	話し合いのめあて	一人ひとりの意識が高まり、自分たちの力で解決できる方法を考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現したり、友達の考えを認めたりしながら、合意形成を図る。</li> <li>学級で決まったことを踏まえて、意思決定する。</li> <li>友達よさや頑張りを認める。</li> </ul>
議題	給食時間の私語をなくすために一人一人ができることは何か。							
提案理由	静かなときもあったけれど、最近、意識が弱くなっている。自分たちの命を自分たちで守っていく必要があるから。							
話し合いのめあて	一人ひとりの意識が高まり、自分たちの力で解決できる方法を考えよう。							
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級会で決まった内容を実践する。</li> <li>1週間後、実践の振り返りをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践を通して身に付けたことを生かし、日常生活の向上を図る。</li> </ul>						

### 2 自発的、自主的な活動を充実させる指導の工夫

特別活動において自己有用感を高めるためには、児童の思いや問題意識から自発的に活動が生まれ、自主的に運営されていくことが重要な要素となります。発達段階に即した学級活動の内容を踏まえながら、自発的、自主的な活動を生み出す教師の具体的な手立てを中心に研究を進めました。

#### ○学級会における指導助言の工夫

話し合いがそれたとき	「提案理由や話し合いのめあてを見てみましょう。」
意見が対立したとき	「それぞれの意見の違いはどこでしょう。」 「それぞれの意見のどんなところがよいでしょう。」
司会が進め方について困っているとき	「フロアーから進め方についてアドバイスはありますか。」
発言を価値付ける終末の総評	「Aさんの賛成意見は、提案理由を踏まえて述べられていましたね。」 「今日の司会さんは、進め方について困ってしまったときに、どのように進めたらよいかフロアーの人に尋ねていましたね。」

#### ○合意形成を図るための指導の工夫

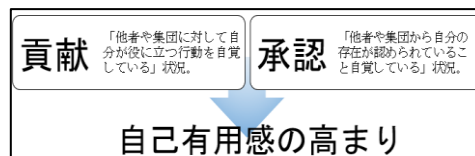
意見の共通点や相違点を確認したり、よさを比べ合ったりしながら、よりよい意見を見付け、学級のみんで折り合いを付けながら、右記の視点で意見をまとめたり、合意形成を図ったりする。

- ・意見を組み合わせることはできるか。
- ・みんなにとってよい意見か。
- ・今の自分たちにとって最も必要な意見はどれか。

### 3 自己有用感を高める評価の工夫

自己有用感を構成する要素として、「貢献」と「承認」を関連付けました。具体的には、一人一人が活躍できる状況を生み出すことを前提とし、事前・本時（学級会）・事後の活動に「貢献」を自覚する振り返りの活動を位置付けました。

また、学級会の終末に、学級の一員としての参画意識を喚起させることをねらい、話し合ったことを踏まえて自分ができることについて意思決定する活動を設定しました。さらに、集団からの「承認」を目的とした「がんばったねカード」による相互評価や教師による評価によって自己有用感を高めることを目指しました。



#### <3年次研究の重点>

- ・合意形成を図るための指導の工夫
- ・自己有用感を高める評価の工夫

### Ⅲ 研究実践

## 3年生実践 『学級ポストから（学級や学校における生活づくりへの参画）』

実践のテーマ：4年生に向けて必要な力や心について合意形成を図り、意思決定や相互評価を通して、実践へ向けての意欲を高める学習

### 1 研究授業のねらい

本活動は、学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画の「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」に関わるものです。学級ポストに集まった議題案の中から、今の自分たちに必要な議題を選びました。

事前調査からは、多くの児童が学級会を好む反面、司会として役割を果たすことに対して苦手意識を有する児童が約3割いることが分かりました。また、9割の児童が自分の学級を好み、「友達のことを信頼している」と感じている一方で、「自分は学級の中で大切な一員だと思う」と回答した児童の割合が学級の半数であることが分かりました。このことから、安心して学級会の司会を務められるよう事前準備を計画的に進めるとともに、自己有用感の高まりを通して自己肯定感を獲得できるような活動のサイクルが有効であると考えました。

本時では、「4年生に向けて必要な力や心」について話し合いました。提案理由と話し合いのめあてを明確にし、意思決定、相互評価や自己評価を通して自己有用感を高めることをねらいとしました。提案理由と話し合いのめあてを土台とし、それぞれの意見を比べたり組み合わせたりしながら話し合いをすることで、質の高い合意形成ができるように働き掛けました。

### 2 活動の指導計画

時	主な活動内容		育成する資質・能力
事前	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画委員会①→学級ポスト内の課題から、全体の場で議題を精選する。</li> <li>計画委員会②→本時の役割分担、提案理由、話し合いのめあて、討議の柱を考える。</li> <li>事前の活動→提案理由、話し合いのめあて、討議の柱を受けて、本時の前に自分の考えをもつ。</li> <li>事前の振り返りをする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>学級内での課題や自分たちの生活をよくするために必要なことを見いだす。</li> <li>議題の提案理由、話し合いのめあてを踏まえて、自分の考えをもつ。</li> </ul>
	普段から学級や学校の問題について気付いたり考えたりしていますか。	◎ ○ △ ×	
	学級会の前までに討議の柱について自分の考えをもちましたか。	◎ ○ △ ×	
本時の活動（学級会）	議題	4年生に向けて、必要なこと、力、心について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを表現したり、友達の考えを認めたりしながら、合意形成を図る。</li> <li>学級で決まったことを踏まえて、意思決定する。</li> <li>友達のよさや頑張りを認める。</li> </ul>
	提案理由	今、どんな4年生を目指すか話し合っておくことで、高学年として自信をもってスタートすることができるから。	
	話し合いのめあて	みんなが考える理想の4年生の姿をはっきりさせて、毎日の生活でできることを考えよう。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>議長団は、決まっていることを確認し、本時の進め方を説明する。</li> <li>議題について、提案理由と話し合いのめあてに基づいて話し合い、4年生に必要な力や心に関して、明日から取り組める方法について考える。</li> <li>学級会の振り返り（自己評価、意思決定、相互評価）をする。</li> </ul>		
	普段から学級や学校の問題について気付いたり考えたりしていますか。	◎ ○ △ ×	
学級会の前までに討議の柱について自分の考えをもちましたか。	◎ ○ △ ×		
学級会で決まったことの中で、これから自分がしていくことは何ですか。	記述		
ペアの友達の頑張りについて伝える。	ロイロノートで入力		
事後	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級会で決まったことを意識して生活する。</li> <li>実践の振り返りをする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>実践を通して身に付けたことを生かし、日常生活の向上を図る。</li> </ul>
	学級会で決まったことを、進んでできましたか。	◎ ○ △ ×	
	活動を通して、自分が頑張ったことやできたことを書きましよう。	記述	
ペアの友達の頑張りについて伝える。	ロイロノートで入力		

### 3 本時の活動

#### (1) 本時の目標

4年生に向けてどのような力や心が必要か、提案理由や話し合いのめあてを意識しながら話し合い、合意形成に関わろうとするとともに、話し合ったことを踏まえて、自分が取り組むことについて意思決定している。

#### (2) 本時の展開

活動の流れ	活動内容と主な活動	研究との関わり・留意点								
本時の活動 1 意識化・共通化	<p>○議題の提示</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">4年生に向けて、必要なこと、力、心について考えよう。</p> <p>○提案理由、話し合いのめあての確認</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">&lt;提案理由&gt; 今、どんな4年生を目指すか話し合っておくことで、高学年として自信をもってスタートすることができるから。</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">&lt;話し合いのめあて&gt; 理想の4年生の姿をはっきりさせて、毎日の生活でできることを考えよう。</p> <p>○事前に決まっていることの確認</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">&lt;事前に決まっていること&gt; ・みんなで決めたことを学級全員で意識して、残りの3学期を過ごす。</p>									
2 追求・解決	<p>○討議の柱1「4年生に向けてどのような力や心が必要か」意見を出し合う。</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">「思いやる心が必要だと思います。なぜなら、12人組で2年生とペアになり、支えていく側だからです。」 「自分の考えを相手に分かりやすく伝える力が必要だと思います。運動会のペア競技など、2年生に話をする場面があるからです。」 「振り返りを大切にすることが大切だと思います。振り返りを大切にすると、もっと成長できるからです。」</p> <p>○意見を比べ合う（賛成・不安・提案）。</p> <p>○討議の柱2「(討議の柱1で話し合ったことを基に) 日常的に取り組めること」について意見を出し合う。</p> <p style="border: 1px solid green; padding: 5px;">「思いやる心をもつために、友達の話をよく聞いたり、受け入れたることを大切に過ごすことがよいと思います。」 「分かりやすく伝えることは、普段の授業でも大切だと思うので、答えと理由を話すことを大切にするとよいと思います。」</p>	<p>◇合意形成を図るための指導の工夫 <b>研究視点 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いの前後及び必要に応じて適切なタイミングで助言する。</li> </ul> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【思考力・判断力・表現力等】 4年生に向けて必要な力や心について話し合い、多様な意見を認め合いながら合意形成をしている。(全体での発言・観察)</p>								
3 実践への意欲化	<p>○意見を比べ合う（賛成・不安・提案）。</p> <p>○決定したことを確認し、学習の振り返りをする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="font-size: small;">提案理由と話し合いのめあてを意識して考えることができましたか。</td> <td style="text-align: center;">◎ ○ △ ×</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">意見を比べ合い、まとめるときに、進んで協力しようと思いましたか。</td> <td style="text-align: center;">◎ ○ △ ×</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">学級会で決まったことの中で、これから自分がしていくことは何ですか。</td> <td style="text-align: center;">記述 (意思決定)</td> </tr> <tr> <td style="font-size: small;">ペアの友達の頑張りについて伝える。</td> <td style="text-align: center;">ロイロノートで入力</td> </tr> </table>	提案理由と話し合いのめあてを意識して考えることができましたか。	◎ ○ △ ×	意見を比べ合い、まとめるときに、進んで協力しようと思いましたか。	◎ ○ △ ×	学級会で決まったことの中で、これから自分がしていくことは何ですか。	記述 (意思決定)	ペアの友達の頑張りについて伝える。	ロイロノートで入力	<p>◇合意形成を図るための指導の工夫 <b>研究視点 2</b></p> <p>◇自己有用感を高める評価の工夫 <b>研究視点 3</b></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【思考力・判断力・表現力等】 話し合いで決まったことから自身のすべきことを意思決定している。(ノート) ・称賛や励ましの声掛けをする。</p>
提案理由と話し合いのめあてを意識して考えることができましたか。	◎ ○ △ ×									
意見を比べ合い、まとめるときに、進んで協力しようと思いましたか。	◎ ○ △ ×									
学級会で決まったことの中で、これから自分がしていくことは何ですか。	記述 (意思決定)									
ペアの友達の頑張りについて伝える。	ロイロノートで入力									

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

4年生に向けて必要な力や心について、自分なりの考えをもって合意形成に関わり、話し合ったことを踏まえて意思決定している姿。

## 4 授業の実際

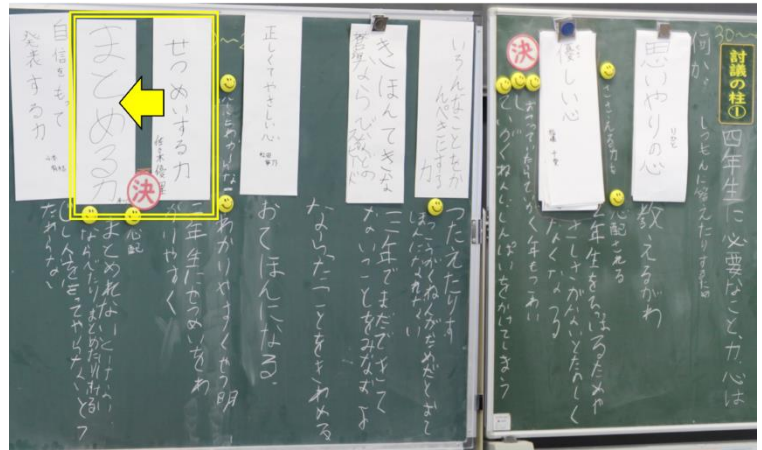
### 合意形成を図るための指導の工夫

学級や学校の生活をよりよくするための活動を充実させるためには、事前から事後までの一連の学習過程の中で、児童が主体性を発揮しながら課題の発見や解決を進める必要があると考えました。1, 2年次研究では、議題を選定したり、提案理由や話し合いのめあてを考えたりする計画委員会の取組や、問題の発見・確認、解決方法の話し合い、決めたことの実践、振り返りまでの一連の学習過程のサイクルを能動的に繰り返す学習過程の在り方について明らかにしました。3年次研究では、学級や学校という集団の生活をよりよくするために、集団の総意として合意形成を図ることをねらい、合意形成の方法や教師の指導・助言について研究を進めました。

本時では、「4年生に向けて、必要なこと、力、心について考えよう」という議題を設定しました。自分たちが考える理想の4年生像を明らかにし、4年生までの学校生活の中で日常的に取り組めることについて話し合いました。

討議の柱1では、「4年生に向けて必要な力や心」について話し合い、高学年になることを意識した「優しい心」「いろいろなことを完璧にする力」「説明する力」「まとめる力」といった意見が出ました。

意見を比べ合う場面で、合意形成を図るための視点を児童に提示し、フロアの児童が視点を基に意見を述べたり、司会の児童がフロアに問うたりすることができるようにしました。視点を踏まえながら、A児は「説明する力は、まとめる力の中に含まれていると思います。なぜなら、しっかりと説明することがペア学年である2年生をまとめることにつながっていくからです。」と発言しました。これは、「賛成、不安、質問、提案はありますか。」という司会の進行を受けたもので、A児は「合意形成を図るための視点」を基に、「提案」をしたこととなります。A児の提案をフロアも「自分たちの目標は、説明することではなく、2年生をまとめること」と納得しました。A児の発言とフロアの反応から、合意形成を図るためには、賛成意見や不安に感じることにについて述べ合うことに加え、「提案」という意見の述べ方を児童が理解しておくことが有効であると考えました。意見を組み合わせたり、出された意見を基に新しい考えを生み出したりしながら、よりよい意見を児童が見いだしやすくなることが分かりました。



【提案理由と話し合いのめあてを明確にした本時の板書】

- ・それぞれの意見のよさは何か。
- ・共通点や相違点は何か。
- ・提案理由や話し合いのめあてに合致しているか。
- ・みんなにとってよい意見か。
- ・今の自分たちにとって、最も必要な意見はどれか。
- ・意見を組み合わせることはできるか。
- ・意見を基にして、新しい意見をつくることはできるか。

【合意形成を図るための視点】

### 自己有用感を高める評価の工夫

自己有用感が高まると、実践への意欲が継続し、次の課題解決につながっていくと考えました。自己有用感とは、「社会や他人の役に立った」ことを自覚する「貢献」と、他者からの肯定的な評価である「承認」を通して生まれてきます。

そこで、本活動では、事前・本時・事後における振り返りの時間を指導計画に位置付け、自身の成長を実感しながら、「貢献」することへの意識を高めることを重視しました。加えて、本時では、話し合いで決めたことを踏まえながら、自分にできることを意思決定する活動を設定し、参画意識を高めることを目指しました。さらに、継続的な取組となるよう、実践の振り返りを行いました。

B児は、本時での話合いを受けて、自身の行動を振り返りながら、「人に優しく接していきたい」と意思決定しました。その後、休み時間や係活動の場で、自ら関わりをもとと働き掛ける様子が見られ、実践後の振り返りにおいて、友達への接し方を意識して生活したことを自覚している記述が見られました。

実践後のアンケートでは、8名の児童の自己有用感を示す数値が上昇しました。B児は、活動の事前アンケートでは、「自分は学級の中で重要な一員ではない」と捉えていましたが、「がんばったねカード」を通して、友達から具体的な言葉で承認されることで、自己有用感を高めることができました。

<活動を3回振り返りましょう> ①学級会の前 ②学級会の後 ③その後

①-1 ぶだんから学級や学校の問題について気付いたり考えたりしていますか。	◎	○	△	×
①-2 学級会の前までに話し合う柱について自分の考えをもちましたか。	◎	○	△	×
②-1 ていあん理由と話し合いのめあてを意識して考えることができましたか。	◎	○	△	×
②-2 意見を比べ合い、まとめるときに、進んで協力しようとしたか。	◎	○	△	×

②-3 学級会で決まったことの中で、これから自分がしていくこと。  
 私が、やらせていくことは、人にやさしくせ。することです。なぜなら、すぐあつたり、あつたりでせることまじたら、なかがあるくなて、せすることなくなたり、「おこらぬい」となかがわるくなて、あわなくなるかもしれなわい、やさしくして、「がんばったねカード」もよくしたりと思ひました。

◎	○	△	×
◎	○	△	×
◎	○	△	×
◎	○	△	×

③-1 学級会で決まったことを、進んでできましたか。

③-2 取り組みを終えて決まったことをいしきするようになって、友だちをせえたり、おこらぬいで、人にやさしくすることをいしきして生活できました。それをして友だちと少しなめよくなりま

【自己評価】  
本時の学習を振り返る。

【教師による評価】  
活動の様子や振り返りの内容についてフィードバックする。

【意思決定】  
話し合ったことを踏まえて自分ができることについて記述する。

【実践の振り返り】  
継続的な取組となるよう、定期的に振り返りを行う。

【相互評価】  
「がんばったねカード」にペアの友達の頑張りを入力する。

がんばったねカード  
自分の名前：  
Bさんへ  
Bさんは、緊張をあんまりしないで何回も手をあげて発表してあたのがよかったよ。  
「思いやりの心」という考え、2年生のことを考えてすごいいね。  
人にやさしく接するという目標をしっかり立てることができたね。がんばってね！

### 【B児の振り返りと友達から送られた‘がんばったねカード’】

## IV 3年次研究の成果と課題

3年次研究では、「合意形成を図るための指導の工夫」「自己有用感を高める評価の工夫」を重点として研究を進めました。

### 1 研究の成果

- 本時（学級会）の前後の活動を指導計画に位置付けることで、問題の発見・確認、解決方法の話合い、決めたことの実践、振り返りまでの一連の学習過程のサイクルを能動的に繰り返すことができました。
- 合意形成の視点を提示したり、賛成理由や不安な点について述べ合うことに加え、新たな考えを提案する場面を設定したりすることで、児童がよりよい意見を見だしやすくなることが分かりました。
- 話合いで決まったことを踏まえながら自分にできることを意思決定し、継続的に振り返ることで実践的な活動となり、学級への貢献を自覚する児童が増えました。

### 2 今後の課題

- 学級活動（1）における意思決定の場面と実践中の振り返りの回数やスパンについて、実践を積み重ねた上で検証し、精査していく必要があります。
- 学級会での話合い場面における相互評価に加え、事後の相互評価についての研究を進め「承認」につながる手立てについて明らかにする必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 文部科学省 東洋館出版 平成29年6月
- みんなでよりよい学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編 国立教育政策研究所教育課程研究センター 文溪堂 平成31年1月
- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 特別活動】 国立教育政策研究所教育課程研究センター 東洋館出版社 令和2年6月
- 初等教育資料 No.991「特集Ⅱ 新学習指導要領に向けた指導の在り方〔特別活動〕」 文部科学省 東洋館出版社 令和2年3月
- 特別活動で、日本の教育が変わる！ 杉田 洋 稲垣 孝章 小学館 令和2年7月